

令和4年度東北大学学生評議員懇談会での意見交換について

令和4年度東北大学学生評議員懇談会を、令和4年11月15日（火）に開催しました。懇談会には、学生評議員と総長を始めとする教育研究評議会評議員が出席し、授業や就職活動、学生支援についてなど、幅広いテーマで意見交換が行われました。以下に、その概要をご紹介します。

（●：学生評議員 ○：教育研究評議会評議員）

【学生評議員制度について】

- 幅広い階層から意見を聴取する観点から、各学部および各大学院の代表は必要ではないか。
- 学生評議員制度は、皆さんひとりひとりから具体的なご提言や意見交換をしっかりと行うという観点から現在の選出数としており、毎年度学部から5学部、大学院から5研究科を選出し、学部は2年間、大学院は3年間で全ての学部・大学院をカバーできる仕組みとしています。今後も、本学の学生評議員制度をより良いものとしていくため、本制度の在り方も含め、皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いたします。

【学部高年次・大学院における専門分野以外の授業履修について】

- 専門課程に入ってしまうと、分野が細分化されてしまい視野が狭くなってしまう。異分野の学問を学ぶ機会を増やすことはできないか。
- 学部によっては共通する科目を設定して相互に他の学科や他のコースの授業科目を自由に選択できるシステムを採用しており、大学院においては今年度から大学院共通科目を開設して狭い専門領域に閉じない高度教養教育による学びの機会の提供を開始しました。全学教育のカレントトピックス科目や、東北大学 MOOC などのキャンパス移動を伴わないオンラインの授業もありますので、皆さんにご活用いただけるよう、周知徹底を図っていきたいと思っております。

【履修登録科目以外の授業資料閲覧について】

- 履修登録をしなくても授業資料などが閲覧できるシステムがあったら嬉しい。自分の都合のいいタイミングで授業資料を閲覧できると良い。
- 授業資料の提供については、著作権などの様々な事情により、授業受講者に限って資料を提供しております。もし資料の閲覧を希望する場合は、その授業の担当教員にご相談ください。

【キャリア支援センターの周知について】

- 大学のキャリア支援センターについて、支援内容の詳細を周知していただきたい。個別相談会やセミナーなど詳細について把握しきれておらず、学生間で話題に上がることも少ないように感じている。
- 就職活動について、大学側から提供している情報などがもっと学生に届きやすくなると良いと思う。
- キャリア支援センターの支援内容については、ホームページでの案内および学務情報システムのメッセージ配信機能を使って学生の皆さんにお届けするようにしています。イベント関連を中心に、キャリア支援センターの支援内容等が直接分かるような配信も行い、皆さんに情報が届くように周知を行っていきたいと思います。なお、学部によってはホームページやオリエンテーション等で周知を行っており、医療系の学部では薬剤師、病院からの公募情報など、全学とあまり重複しないような情報も提供していますので、キャリア支援センターからの情報と併せてご覧ください。

【就活と研究と授業の両立について】

- 学部4年生の段階で授業がほとんどなくなったが、修士に上がるタイミングで授業と就活が加わったことにより、それまで研究一本であったのが、時間を三分割しなければいけない状態となった。4年生の授業が少ない期間に、修士の授業を履修できる制度があればいいと考えている。
- 研究科によっては、4年生のうち修士1年の講義を受けることができる先行履修制度を設けております。研究科の教務担当係にご相談ください。

【多様なイベント等の企画及びその周知について】

- 学外の教授やゲストを招き、多様性に富んだトピックについて話すセミナーやワークショップなどのイベントを企画してほしい。もっと異なる地域の人たちが集まり、意見交換をする機会を持ちたい。また、イベント情報についても、留学生にもっと届くようにしてほしい。

- 片平キャンパスの「知の創出センター」ではオンラインだけでなく、オンサイトのミーティングや特別招待講義など、有益な情報を提供しており、また川内キャンパスの「グローバル・ラーニング・センター」においてもイベント情報を発信していますので、ぜひ活用してみてください。国内外の講師や研究者との交流の機会を増やすとともに、そのような機会が十分に広報され学生の皆さんのもとに届くよう、さらに工夫していきたいと思えます。

※懇談会でいただいたご意見を踏まえ、学生の皆さんが学内のイベント情報を収集できるよう、東北大学の公式ホームページや各種 SNS へのご案内を、学務情報システムを通じて学生の皆さんへ発信しました。

【学年・研究室を越えたつながりについて】

- 同研究科の同研究室内でも、学年を越えた縦のつながりの形成が難しく、研究的交流を持ちづらい。研究室ごとや分野ごとのプラクティスの十全な共有が困難である。

- キャンパスがいくつかに分かれている総合大学として、研究の交流を進める上で課題もありますが、積極的に若手の研究者が交流する機会を持てるようにしたいと考えています。大学院生のプロジェクト型研究の合同報告会を行っている研究科もあり、そこでは様々な分野の方が一堂に会して議論を行っていますので、積極的にご参加ください。

【大学への帰属意識について】

- 東北大学に団結力と帰属意識をもたせたいと考えている。七大戦の各競技結果や大学の順位などをリアルタイムで知らせられる掲示板を、川内の生協前に立てたい。

- ご提案ありがとうございます。学友会体育部長を中心に、競技のスコアを複数のメディアで発信しておりますので、こちらとも連携して参ります。

【奨学金による支援について】

- 博士課程の学生に対する支援が拡大している一方で、一部の奨学金やプログラムでは定員割れが起きていると聞く。その場合、余剰分の財源はどのように活用されているのか。
- 高等大学院機構において、なるべく多くの学生を支援できるよう奨学金の割り振り、選考を行っておりますので余剰金は生じておりません。なお、医療系の大学院では、学生の大部分が社会人入学、または病院医療施設等で勤務・アルバイトをしているという事情から、収入面により奨学金の応募対象とならない場合があります。
- 博士課程進学か就職するかを迷っている修士学生のために、博士奨学金プログラムの選考システムを変えるのはどうか。(M1の学生に対する早期の博士奨学金選考の実施・博士課程進学を迷っている人でも応募可能な奨学金枠の設定)
- ご提案ありがとうございます。大学として確保できる金額が限られていることから、現在は博士課程進学を予定しているM2の学生に対して支援を決定する形としております。ご提案は博士課程進学を決める一つの要素になると思いますので、メリットとデメリットを踏まえて今後検討してまいります。

【eduroam 整備について】

- 学内における eduroam の接続が悪い場所が、対面授業の増加とともに多くなっている。(川内北キャンパス文科系総合講義棟、東北大学附属図書館本館など)。
- 総合講義棟や図書館等、随時設備のアップデートを行っています。現在、半導体不足の影響から機器の調達に時間を要しており、学生の皆様にはご迷惑をおかけしております。改善できるよう引き続き対応してまいります。

以上